

## 第 1 回 富士見市地域公共交通会議会議録

会議の名称	第 1 回富士見市地域公共交通会議		
開催日時	平成 2 7 年 7 月 3 0 日 (木)	開会	午前 1 0 時 1 0 分
		閉会	午前 1 1 時 5 0 分
開催場所	市長公室	出席者数	委員定数 2 0 名中 出席者 1 6 名
出席者	委員	深野富雄委員、島田アサ子委員、清水実委員、臼杵洋子委員、 白砂栄子委員、大久保雄二委員、高原昭委員、真家正人委員、 板谷和也委員、木部康久委員、石塚章委員、長屋俊直委員、 奥村敬一委員、島田臣己委員、岩田勇治委員、新井健司委員 ※欠席 照井誠委員、鶴岡洋委員、三上秀樹委員、宮崎信二委員	
	事務局	星野市長 <b>【事務局職員】</b> 森川建設部長、柴崎建設部副部長、荒川交通・管理課副課長、 堺交通・管理課技師、地域計画(株)福田圭一	
配布資料	第 1 回富士見市地域公共交通会議 次第 第 1 回富士見市地域公共交通会議 席次表 第 1 回富士見市地域公共交通会議 出席者名簿 資料 1 富士見市地域公共交通会議委員名簿 資料 2 富士見市地域公共交通会議条例 資料 3 富士見市地域公共交通会議の目的 資料 4 市内公共交通の現状について 資料 5 市民アンケート調査の実施概要について 資料 6 富士見市地域公共交通会議 今後のスケジュール (案) 参考資料 富士見市都市計画図		
公開・ 非公開	公開 (傍聴 2 名)		

## 会 議 事 項

I 委嘱状及び任命書交付式 市長より委員へ委嘱状及び委任状を交付

## II 富士見市地域公共交通会議

1 開会 森川建設部長

2 市長あいさつ 富士見市長 星野信吾

3 委員紹介 資料1を参照

4 富士見市地域公共交通会議条例について 資料2を参照

5 会長及び副会長の選出

互選により、会長に奥村委員、副会長に板谷委員を選出。

奥村会長・板谷副会長よりあいさつを頂く。

6 議事

(1) 富士見市地域公共交通会議の目的について

資料3により事務局から説明。

### 質疑応答

委 員：タクシーはドアトゥドアで運行できる公共交通機関である。会議の目的  
において、新たな交通サービスとはデマンド交通等を指すと思われます

が、是非そこにタクシー利用の促進を検討して頂きたい。具体的には、東松山市や志木市で行っているようなタクシー利用券の配布を検討して頂きたい。

事務局：志木市はタクシーを使い試行運行を開始し、三芳町については、デマンド交通の運行を開始され、他の自治体が行っていることも把握しながら、この会議の中で、富士見市における交通状況を認識して頂き、より良い交通環境を検討していきたいと考えております。その中にタクシー利用も含まれているものと考えております。

副会長：目的は、広く持って頂き、地域の実情に則した地域公共交通を構築するために、どうすればいいのかを検討していければと考えております。

他の自治体の会議から、継続的に会議を開くことがよい結果に結びつく事が多いため、継続的に会議を開催してはいかがでしょうか。また、アンケートも1回だけではなく、市民の意見を聞くために継続的に実施していくことを検討されてはいかがでしょうか。

事務局：地域公共交通を構築するためには、時間がかかると認識しており、継続的な検討は必要と思っております。また、アンケートに関しては、これまで市民意識調査等継続的に実施しているものがございますが、地域公共交通会議の中でも今後アンケートが必要になると思っております。

## (2) 市内公共交通の現状について

資料4により事務局が説明。

### 質疑応答

会 長：市内循環バスは当初、東武東上線西側を運行していたが、利用者が少な

<p>いことや踏切横断に時間がかかることなどの理由により廃止となりました。現在は、より効率の良い市役所から駅へ向かっていく路線となっています。</p>
<p>委員：東武東上線西側の運行には踏切横断により時間がかかるという話だが、たとえば、西側のみを運行して、東側のバスと乗り継ぐ方法はないのか。</p>
<p>事務局：3駅（ふじみ野駅、鶴瀬駅、みずほ台駅）の東西口にはエスカレーター、エレベーター等ございますので、駅に行けば乗り継ぎは可能と考えております。ただし、みずほ台駅西口にはエレベーターが設置されておられません。</p>
<p>会長：専門的な立場で、鉄道駅に関してバスの乗り継ぎはどのように考えていますか。</p>
<p>委員：バスは交通状況により遅れが生じることから、乗り継ぐためには、駅でかなりの待機時間を取らなければならず、効率が悪くなるのが現状です。</p>
<p>副会長：市内循環バスの利用者数はデータを見る限り、1便あたり7～8人程度であり、事業環境としては赤字が出るような状況ではありませんが、特別乗車証利用者が5割程度いるため収支として赤字になっています。</p>
<p>そこを、特別乗車証利用者数に170円を乗じた分を市が補助金を出すという考え方をした場合、企業努力で利用者数が伸びるのではないのかと考えますが、いかがでしょうか。</p>
<p>委員：市内循環バスは市の施設を中心に運行しているため、民間路線バスと同様に利用者数を増加させるのは厳しいと考えております。市内循環バスと民間路線バスは考え方が違いますので、分けて考えて頂ければと思います。</p>

(3) 市民アンケート調査の実施概要について
資料5により事務局から説明。
<u>質疑応答</u>
委員：アンケートの回収率は何%以上を目標としているのか。
事務局：40%程度を考えております。
会長：40%より低い場合はやり直すのですか。
事務局：今回はやり直しを考えておりません。内容をしっかりと分析していきたくて考えております。
(4) 今後のスケジュールについて
資料6により事務局から説明。
7 その他
<u>質疑応答</u>
委員：踏切の通過について、市として立体交差等の考えはありますか。
事務局：立体交差に関しては、用地の問題、費用の問題等ありまして、現状難しい状況です。
会長：地域公共交通会議は現状の道路状況の中で議論して頂きたいと思います。
委員：鶴瀬駅西側の904号線の道路整備状況について教えて頂きたい。
事務局：平成25年から平成27年度末までに用地交渉を終えて、整備工事をしていきたいと考えております。
委員：市内循環バスが担っているものは、交通空白地域を補填するものなのか、市民のニーズに合わせた運行をするのかによって議論の方向性が違いますので、目的をはっきりとさせた方が良くと思います。

事務局：運行当初から状況が変化していますので、交通不便地域等を把握しながら、改善できるものがあれば改善していければと思います。

会 長：アンケート結果をふまえて次回議論して頂ければと思います。

8 閉会 森川建設部長